

総括質疑並びに一般質問（個人質問）

【質問日】平成26年6月24日（火）

質問 順位	質問者	質問事項
10	持原 秀行	<p>1 災害時の避難施設確保について</p> <p>(1) 各種災害に対する住民避難施設の状況は万全か。</p> <p>(2) 原子力災害時のバス避難計画は万全か。</p> <p>(3) 耐震強度不足が指摘された下甌公民館の早期再建に向けての施策は</p> <p>2 P A Z内の市民へ事前配布する安定ヨウ素剤について</p> <p>(1) 安定ヨウ素剤の概要は</p> <p>(2) 今回、安定ヨウ素剤の各戸事前配布に至った理由は</p> <p>(3) 誤服用のリスク及び紛失のリスクについての考え方は</p> <p>(4) 誤服用による副作用発生時の健康被害責任の所在は</p> <p>(5) 安定ヨウ素剤事前配布用問診票兼受領書の記載方法は</p> <p>(6) 安定ヨウ素剤の住民への服用指示の方法は</p> <p>(7) 安定ヨウ素剤の使用期限における追加配布についての考え方は</p> <p>(8) 乳幼児に対する服用量についての考え方は</p> <p>(9) 慎重投与対象者及び禁忌者となった場合の対応は</p> <p>(10) 必要な住民情報の把握・管理は万全か。</p>
11	帯田 裕達	<p>1 市比野温泉街活性化の取組について</p> <p>(1) 市比野温泉地域活性化整備計画の進捗状況は</p> <p>(2) 今後の見通しと実行性を問う。(公衆トイレ、足湯の整備)</p> <p>(3) 本市の観光産業における市比野温泉の位置付けと方向性</p> <p>2 市比野温泉場中通り線の整備について</p> <p>(1) 中通り線での事故発生状況は</p> <p>(2) 修復、改良の計画は</p> <p>3 樋脇地域の街路灯について</p> <p>(1) 本市で管理している街路灯の数は</p> <p>(2) 修復、新設の計画は</p> <p>(3) LED街路灯導入事業との整合について</p> <p>4 丸山自然公園サッカーコートについて</p> <p>(1) 芝、人工芝、クレーコートの利用状況について</p> <p>(2) 管理について</p> <p>(3) クレーコートの整備計画について</p> <p>5 本市の人口動向について</p> <p>(1) 直近の出生率は</p> <p>(2) 若年女性の未婚率と人口推移について</p> <p>(3) 定住人口減少の対策について</p>
12	佃 昌樹	<p>1 川内原子力発電所再稼働に関する諸問題について</p> <p>(1) 避難計画について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア 県の避難時間シミュレーションが示されたが、その完成度について、市としてはどのように評価したのか。</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 避難説明会・研修会への市民参加があまりにも少ない。原因は何か。市民の意識調査は考えないのか。</p> <p style="padding-left: 2em;">ウ 市民にとって県の避難時間シミュレーションはあまりにも不評だが、市とし</p>

		<p>てその対応策についてどのように整理しているか。市民は最大の被害を受けることになる。市民の生活と生命を守る決意があれば、その決意を示してもらいたい。</p> <p>エ 避難説明会・研修会等で出された意見等もたくさんあったと思うが、喫緊の課題として早急に取り組まなければならない課題を示してもらいたい。</p> <p>オ 市役所職員の原子力災害対策の初動体制については拘束されているが、原災法第15条通報後の職員の危機回避についての対応はどのように考えているのか。</p> <p>カ 3歳児未満の乳幼児への安定ヨウ素剤配布の具体はどうなっているか。</p> <p>(2) 避難計画の受入れについて</p> <p>ア 避難とその受入れについては、セットという認識はあるのか。</p> <p>イ 受入態勢の完備に向けて、実態調査や当該自治体との共通認識等の進捗状況はどうなっているか。</p> <p>ウ 市の機能移転は、どのように考えているのか。</p> <p>エ 短期間の避難生活に必要な生活物資の提供はどこがすべきか。</p> <p>(3) 再稼働の判断について</p> <p>ア 大飯原発の福井地裁判決「原子力発電所の電気を生み出す経済活動は人間の人格権の劣位である」についての見解を求める。</p> <p>イ 再稼働判断の時期及び手続について、どのように考えているか。</p> <p>ウ 原発稼働は一時期においては経済的効果はもたすが、どの自治体においても持続的に効果を維持する自治体は存在していない。本市においても持続的経済浮揚は期待外れであった。福島原発事故以来、再稼働反対表明が多数派になった。国民や市民の原発に関する意識の変革があったと認識できる。川内原発再稼働については一部業種についてはその恩恵を受けること、原発における雇用が存在すること等十分理解はしている。しかし福島原発事故がなかったことにはならない。現実には起こっているし今後も起こりうる可能性は十分ある。原発震災者の14万人は甚大な被害と同時に、人格権まで破壊されている。規制委員会が審査している規制基準は広義的には安全基準だが実質的な安全基準とはなっていない。事故リスクが限りなくゼロになったわけではない。市民が被災者となったとき、経済活動はおろか人間の破壊へとつながる。再稼働は人間として倫理的側面を問うものである。</p> <p>更に現時点における実効性のない避難計画の中での再稼働判断は市民に対して被曝や生活破壊、人格権の破壊を押し付けるものであり、市民の命と暮らしを守る立場の行政責任者の立場からしても再稼働の拙速な判断はあってはならないことと思慮するが、市長の判断を改めて伺う。</p> <p>エ 直接市民の声を聞く機会の設定について（本市主催として）</p> <p>2 市政改革大綱（第2次）改革アクションプランについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画政策課における平成25年度の具体的取組実績では、「まちづくり研究会の実施」を取組項目として取組を進めて最終的に市長への提言を実施している。どういった提言であったかを問う。 <p>3 株式会社まちづくり薩摩川内と行政施策の連携について</p> <p>4 川内駅東口市有地利活用応募者の選定について</p> <p>(1) 最優秀提案者に至らなかった要因について</p> <p>(2) 市有地の民間活力の利活用は維持しながら、応募について方針を再検討することのようだが、どのように検討していくのか。</p>
13	井上 勝博	1 川内原発の再稼働について

		<p>(1) 大飯原発3、4号機の運転差し止めを命じた福井地裁判決について</p> <p>ア 「(人格権) を超える価値を他に見出すことはできない」</p> <p>イ 他の技術とは異なる原発の本質的危険について</p> <p>ウ 地震という自然の前における人間の能力の限界</p> <p>エ 「国富の喪失」に関して</p> <p>(2) 川内原発再稼働に対する市民の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民団体のアンケート調査の結果をどう受け止めるか。 <p>(3) 避難計画について</p> <p>ア 複合災害を考えているか。</p> <p>イ スクリーニングポイントについて</p> <p>ウ 要援護者の避難施設の公開を</p> <p>エ 避難場所は風向きとの関係で2箇所必要という指摘について</p> <p>2 合併市町村に関わる普通交付税の算定方法の見直しについて</p> <p>(1) 市町村の姿の変化に対応した交付税算定について(案)の説明を</p> <p>(2) 支所に要する経費の算定(案)について説明を</p> <p>(3) 「財政運営プログラム」「定員適正化方針」を見直しし、支所縮小をやめよ。</p> <p>3 高齢者おでかけ支援事業の来年度継続を</p>
--	--	--